

立ち行かない社会となっていくことも明白化していると思います。生産活動することはすなわち消費することであるから、その生産する素材は、全ての地球上の資源から確保することによってその生産ができ消費へと連なっています。従って少ない資源をうまくコントロールして長期にわたって使う方法を考えて行かなければならない訳です。

地球に負荷をかけないもの作りと使用方法のためにエコマテリアルを高度化してイノベーションしていかなければならない。それはサステナブルデザイン社会作りの必要性があり使ったものは究極は自然界に戻すことのできる“もの”作りを心がけていくことによって資源の限界をより長期にわたって使用していく社会構築が求められています。私達に求められる責任として①予測の義務②野生の保全③カウンターバランスをとる④現在の消費規模を90%カットし1/10の資源エネルギーの消費による社会形成作り⑤エコデザインから新しい産業への変化等を工夫した産業経済社会となっていかなければなりません。

このような方向性で“もの”を作り経済活動が成立するような知恵と工夫が今後の命題となっていると思います。少ない資源をゆっくり活用し少なく排出する生活。資源消費に頼らない脱物質化、サービス産業化経済社会の建設、価値観の大変化が起こりつつある今、新たな生活環境を考えて、そして実行して行こうと考えています。

会員の声：春 本間建雄美

先日、川岸の枯れ草の中に小さな春を見つけた。小さな春は太陽の光をいっぱいに浴び、気持ち良さそうに湿った土から顔を出している。『ふきのとう』実にうまさうだ、天ぷらにふき味噌、味噌汁に浮かべるのもいいな…。一瞬食い気に走ってしまいそうになったが、長い長い冬も終わりやと見つけた春だ。しばしこの雰囲気を楽しみたいと窓から眺めている今日この頃である。

それにしても春は実にいい季節だ。暑くもなく寒くもなく日差しもやわらかい。土の匂いがなんとも懐かしく、この歳になってもわくわくするものである。もう少しすれば桜も咲き、その頃には酒の飲めない私でも一杯やりたくなる。最近ではあちらこちらで桜がライトアップされるようになり、また一味違った桜を楽しむことができる。何ともいい難い贅沢である。

お世話になったスタッドレスタイヤを交換し除雪器具も片付けてしまうと、今年のあの大雪がえらく前に感じてしまう。とは言いつつも、もうあんな大雪は勘弁してもらいたい。

今度の晴れた休みには、弁当を持って山菜でも採りに行こうかと計画中である。その時にあのふきのとうもいただくとしよう。

4月17日例会：卓話「話にならない話」今井克義会員

4月24日例会：夜例会 午後7時点鐘 於三条ロイヤルホテル

5月1日例会：卓話 石丸 進会員

5月8日例会：新入会員卓話 岡田 健会員、帰山忠義会員

5月15日例会：休会（三条祭り）



三条北ロータリークラブ週報

意識を喚起し —
進んで行動を

例会日
2001. 4 . 10
累計 No 699
当年 No 38

国際ロータリー会長 フランク J. デブリン 第2560地区ガバナー 吉田昭平

会長／山崎 勲

幹事／外山 晴一

SAA／五十嵐 茂

例会日／火曜日 12:30～13:30

例会場／三条ロイヤルホテル ☎34-8111 FAX34-8114

事務局／三条市西四日町3-15-34 ヒューマン・ハーバー内

☎35-7160 FAX33-8972 Eメール sanjo-n@themis.ocn.ne.jp

行事：卓話「環境保全について」吉川吉彦会員

出席：本日の出席 58名中 43名

先々週の出席率 56名中 45名 80.36%（前年同期82.69%）

【3月の出席状況：会員数56名 例会数3回 平均出席率85.12%（前年同月86.54%）】

先週のメークアップ：4月4日 三条RCへ 山上茂夫さん

5日 燕RCへ 中條耕二さん

7日 地区クラブ奉仕委員会議（新潟）出席 中條耕二さん

長岡RC50周年式典出席 中條耕二さん、山崎 勲さん

ビジター：なし

会長挨拶：山崎 勲



ましよう。

8日の日曜日には長岡ロータリークラブの50周年に中條会員と出席してきました。さすが新潟クラブに次いで日本で59番目、県下2番目に発足したクラブであると同時に、50年の歴史を持つクラブとして恥ずかしくない周年祝賀会でした。記念例会はクラブ員だけで行い、祝賀会だけ各クラブが参加いただきましたが、このようなやり方も一つの方法ではないかと思われます。祝賀会では火災

土器のモニュメントのレプリカ寄贈、今までやってきた悠久山を中心とした桜の1,000本植樹、医療機器の医療機関への寄贈などやってきた行事も立派なものでした。祝賀会の内容も一部を除き会員の手作りのアトラクションでまとめておりましたが、なかなか見事なもので我がクラブの周年行事のときも見習っても良いのではないのでしょうか。ただ残念なことは人口も、経済規模も三条よりずっと大きい町でありながら、一時は80名くらいの会員数を擁したクラブでありながら、現在は46名と我が北クラブより会員数では小さなクラブになってしまっておりました。又25名のチャーターメンバーが全員亡くなっていること、最年少会員が49歳、平均年齢59.75歳と若返りを計れなかったは残念な事です。歴史のあるクラブに良くあることですが、仲良しクラブで仲間に入れなかった会員の退会などが考えられます。不況だけが会員減少の要因ではないと思いますし、会員減少を引き留める方法がなかったか、会員拡大をできなかった要因を考えて見る必要を感じさせられました。

幹事報告： 外山幹事

- ・糸魚川RCより 40周年式典参加に対するお礼
- ・ご案内のとおり例会終了後指名委員会を開催いたします。委員の方はお集まり下さい。

ニコニコボックス： 10日現在累計 883,000円

山崎 勲 君 先週は誕生祝いの花束ありがとうございました。気候も急に初夏を思わせておりますが体に気をつけて下さい。

外山 晴一 君 吉川さんご苦労様です。

五十嵐 茂 君 先週欠席致しました。帰山さん岡田さんのご入会を心より歓迎致します。

小林 満 君 郡合により早退いたします。吉川さんの卓話聞けなくて残念です。

堀川 正幸 君 日曜日に今年の初打に行ってきた。春の野山はもう花盛りです。雪割り草シヨウジョウバカマ、カタクリ、すみれ、菊咲きイチゲ、その他……。ギフチョウも飛んでいました。スコアは90とまあまあでした。

佐藤 弘志 君 吉川さん卓話御苦労様です。環境保全に是非(株)全研ビルサービスをよろしく。

西村 護 君 BOXに協力。

小田登志男君 欠席ばかりでした。相済みません。山崎会長の還暦を祝しBOXの方にもよろしく御協力をお願いします。

梨木 建夫 君 すみませんが所用で早退になります。

大野 新吉 君 吉川さん卓話ご苦労様です。所用あって早退させて致します。週報で吉川さんの卓話を読ませていただきます。

山上 茂夫 君 環境を守る考え方をもっていらっしゃる吉川さん。講演をよろしく願います。産業廃棄物など取扱業者登録など、私たちの仕事です。申請などはお手伝い

させて下さい。

本日の食事： 海鮮丼、ふきの天麩羅、温泉卵、みそ汁、フルーツ

卓話： 「環境保全について」 吉川吉彦



新潟県は今年度より環境首都として大きく先進するための「新潟緑の100年運動」を展開していくことになりました。

できることきつとある。できること始めようというテーマで全県民に働きかける4月29日にビックスワンで大イベントが開催されます。今環境で何が問題なのか。又それに対してできることは何かを求めています。

自然環境の保全・再生・循環型社会の形成・構築を設けてできることを明確にしていくことが大切ではないでしょうか。

近年、私達の身の回りの小川にメダカが姿を消して以来何年経ったのでしょうか。とうとう天然記念物扱いとなってしまいました。まさに環境の変化を象徴していると思います。人類が始めて「地球が危ない」と警告したのは1972年の国連人間環境会議で発表され全世界に問題提起され、その20年後地球サミットで地球環境が一段と悪化し、その克服を国際社会共通の命題として強く確認する場面となり、又その8年後の2000年はさらに環境危機が深まっていることが示されました。2100年までの100年間で地球の気温は1.5～1.6度上昇し海面は14～80cm上昇する。このような事態を引き起こしてきた20世紀後半の私達社会が原因を作ってきたことは明白な事実です。生活の快適さと利便性を求めて大量生産→大量消費→大量廃棄を行ってきた結果です。生産物から出る資源のムダ使いを改めて考える局面に真正面から身を以て問題解決していくことが私達に課せられた最重要課題であります。

話は変わりますが、私達の生命源である酸素は森林によって作られています。人間1人当たりの消費量は1日750g年間300kgの酸素が必要となります。又排出する炭酸ガスは1日1kgで年間365kg。このこの酸素を供給するには1人当たり16本の樹木が必要です。酸素を作り出す森林の重要性はそればかりでなく水を貯蔵する大切なダム役割を担っているのです。生命のもと“水”は山林に雨となり樹木に25%土中に15%地下水に35%川に5%流出します。木の植えていない山林には雨は地下水には10%それ以外は表面に流れ、蒸散したり、川に流出する水は80～90%です。緑は生命を育て、生命を守る重要な環境資源なのです。これら水を使い水に守られて生きていることの認識を高く持つことは人類社会の大切な課題ではないでしょうか。全地球の人類が使える水の量は全部で3%にしかすぎません。そのうちの1/6の17%は中央シベリアのバイカル湖が占めています。

今後の50年間で人口は爆発的な増加となりますが、2000年時点で60億人、2050年には96億人となりそのうちの20%の先進国人口が全世界の消費の80%を使い残りの大半80%の人々はわずか20%のものを分け合って消費する現状から見れば、先進国での生産活動をどうしても変えていかなければ